

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第31期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）

【会社名】 株式会社雪国まいたけ

【英訳名】 YUKIGUNI MAITAKE CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大平喜信

【本店の所在の場所】 新潟県南魚沼市余川89番地

【電話番号】 025(778)0111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員管理本部長 吉川博志

【最寄りの連絡場所】 新潟県南魚沼市余川89番地

【電話番号】 025(778)0111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員管理本部長 吉川博志

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第30期 第2四半期 連結累計期間	第31期 第2四半期 連結累計期間	第30期
会計期間		自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高	(百万円)	10,463	11,671	26,509
経常損失( )	(百万円)	2,420	1,037	1,124
四半期(当期)純損失( )	(百万円)	1,471	651	1,795
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,443	449	1,619
純資産額	(百万円)	1,087	424	910
総資産額	(百万円)	40,624	37,958	38,415
1株当たり四半期(当期)純損失金額( )	(円)	41.30	18.27	50.39
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	2.5	1.1	2.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,893	1,773	974
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	974	449	2,003
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,988	886	1,200
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	1,284	967	1,379

回次		第30期 第2四半期 連結会計期間	第31期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額( )	(円)	18.17	2.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失を計上しているため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却を目的とした経済政策・金融政策等の効果により、個人消費や企業業績の回復の動きが期待される状況で推移いたしました。一方で海外景気の下振れの懸念等もあり、先行きについては依然として予断を許さない状況が続くものと思われまます。

食品業界におきましては、引き続き消費者の食の「安全・安心」に対する高い関心が続く中、円安進行等による原材料価格やエネルギー価格の上昇への対応が求められる環境となりました。

このような状況の中、当社グループは、製品の「安全・安心」維持に万全の体制で臨むとともに、まいたけ、えりんぎ、ぶなしめじ茸3品の品質向上と、原価低減・効率化に努めてまいりました。平成24年3月期及び平成25年3月期の業績悪化の主要因となりましたぶなしめじにつきましては、安定した生産体制が整ったことで、業績改善に大きく寄与いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は116億71百万円（前年同四半期比11.5%増）、営業損失は5億74百万円（前年同四半期は19億62百万円の損失）、経常損失は10億37百万円（前年同四半期は24億20百万円の損失）、四半期純損失は6億51百万円（前年同四半期は14億71百万円の損失）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント		連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
茸	まいたけ	3,761	116.0
	えりんぎ	1,473	106.9
	ぶなしめじ	2,378	128.6
	その他生茸	275	108.0
	生茸計	7,888	117.3
	加工食品	563	108.6
	茸計	8,452	116.7
	もやし・カット野菜	2,145	97.0
	その他食品	738	121.8
	その他	335	83.8
その他計	1,073	106.7	
合計	11,671	111.5	

#### 茸

国内生茸の販売は、個人消費の回復の遅れにより、販売環境は引き続き厳しい状況にあります。販売単価は、2011年から長らく低迷が続いた茸相場が5月以降持ち直し、価格下落に歯止めがかかったことで、販売価格の改善が図られました。まいたけにつきましては、機能性面（ダイエット効果）のマスメディア報道により需要が喚起され、販売量も好調に推移いたしました。ぶなしめじにつきましては、上述の安定生産体制の確立に加え、本年2月に発売を開始いたしました「雪国しめじ恵み」のボリューム感が市場に受け入れられ、前年同四半期比で売上を大きく伸ばしました。

以上により、茸の売上高は84億52百万円（前年同四半期比16.7%増）となりました。

#### もやし・カット野菜

猛暑や大雨等の影響による野菜価格の高騰や、カット野菜における新製品「きのこ大好き玉ねぎMIX」の発売などにより、7月以降は堅調に推移したものの、春先の野菜の豊作とそれに伴う相場下落による落ち込みが大きく、もやし・カット野菜の売上高は21億45百万円（前年同四半期比3.0%減）となりました。

#### その他

その他食品では、納豆の受託生産拡大等もあり、その他計の売上高は10億73百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4億56百万円減少し、379億58百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4億57百万円減少し、83億65百万円となりました。これは主に、現金及び預金が12億55百万円減少し、仕掛品が5億86百万円、繰延税金資産が3億66百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末とほぼ同じく推移し、295億84百万円となりました。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて10億68百万円増加し、212億18百万円となりました。これは主に、短期借入金が増加し、支払手形及び買掛金が4億39百万円、流動負債（その他）に含まれる未払金が6億32百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて10億38百万円減少し、163億15百万円となりました。これは主に、社債が5億12百万円、長期借入金が増加し、固定負債（その他）に含まれる長期リース債務が1億52百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4億86百万円減少し、4億24百万円となりました。これは主に、利益剰余金が6億51百万円減少し、為替換算調整勘定が1億94百万円増加したこと等によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比べて3億17百万円減少し、9億67百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は17億73百万円（前年同四半期比6.4%減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失10億18百万円と、減価償却費及びその他の償却費9億39百万円の計上や、たな卸資産の増加額3億2百万円及び仕入債務の減少額9億93百万円及び利息の支払額3億54百万円等によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の収入は4億49百万円（前年同四半期は9億74百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3億79百万円や、定期預金の払戻による収入8億61百万円等によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は8億86百万円（前年同四半期比70.3%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額16億34百万円や、長期借入れによる収入30億円、長期借入金の返済による支出28億24百万円、社債の償還による支出6億82百万円等によるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は75百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	38,890,375	38,890,375	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	38,890,375	38,890,375	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	38,890,375	-	1,605	-	2,262

##### (6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社大平商事	新潟県南魚沼市余川876番地1	12,543	32.25
大平喜信	新潟県南魚沼市	7,792	20.03
大和ハウス工業株式会社	大阪府大阪市北区梅田3丁目3番地5	1,794	4.61
若井猛	新潟県南魚沼市	965	2.48
大平正夫	新潟県南魚沼市	899	2.31
大平秀子	新潟県南魚沼市	478	1.23
大平洋一	新潟県南魚沼市	444	1.14
大平安夫	新潟県南魚沼市	328	0.84
大平ヨシトミ	新潟県南魚沼市	289	0.74
株式会社第四銀行	新潟県新潟市中央区東堀前通7番町1071番地1	288	0.74
計	-	25,823	66.40

(注) 当社は自己株式(3,259千株、8.38%)を保有しておりますが、上表には表記しておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,259,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,468,400	354,684	-
単元未満株式	普通株式 162,175	-	-
発行済株式総数	38,890,375	-	-
総株主の議決権	-	354,684	-

(注) 自己株式3,259,847株は「完全議決権株式(自己株式等)」欄に3,259,800株、「単元未満株式」の欄に47株含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 雪国まいたけ	新潟県南魚沼市余川89番地	3,259,800	-	3,259,800	8.38
計	-	3,259,800	-	3,259,800	8.38

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役兼執行役員 営業本部長兼機能性食品部長	取締役兼上席執行役員 営業本部長兼機能性食品部長	大平 洋一	平成25年7月1日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,254	998
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 2,256	2,201
商品及び製品	1,169	912
仕掛品	1,650	2,237
原材料及び貯蔵品	704	703
繰延税金資産	198	564
その他	589	747
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	8,823	8,365
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,490	12,508
土地	6,768	6,772
その他(純額)	7,464	7,485
有形固定資産合計	26,723	26,766
無形固定資産	465	484
投資その他の資産		
その他	2,437	2,384
貸倒引当金	50	51
投資その他の資産合計	2,387	2,333
固定資産合計	29,576	29,584
繰延資産	15	9
資産合計	38,415	37,958
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<sup>2</sup> 1,171	732
短期借入金	13,599	15,697
未払法人税等	121	34
引当金	11	289
その他	<sup>2</sup> 5,245	4,464
流動負債合計	20,149	21,218
固定負債		
社債	2,115	1,603
長期借入金	13,494	13,264
退職給付引当金	82	35
その他	1,662	1,412
固定負債合計	17,354	16,315
負債合計	37,504	37,534



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	1,471	2,122
自己株式	1,514	1,514
株主資本合計	882	231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	0
繰延ヘッジ損益	0	11
為替換算調整勘定	34	159
その他の包括利益累計額合計	29	171
新株予約権	56	19
少数株主持分	1	2
純資産合計	910	424
負債純資産合計	38,415	37,958

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	10,463	11,671
売上原価	9,137	9,009
売上総利益	1,326	2,661
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	209	98
運賃	1,208	1,244
報酬及び給料手当	711	607
賞与引当金繰入額	25	45
役員退職慰労引当金繰入額	6	-
雑費	1,128	1,240
販売費及び一般管理費合計	3,289	3,236
営業損失( )	1,962	574
営業外収益		
受取利息	1	1
デリバティブ収益	2	13
固定資産賃貸料	39	47
為替差益	-	44
雑収入	20	53
営業外収益合計	62	161
営業外費用		
支払利息	339	361
雑損失	180	262
営業外費用合計	520	624
経常損失( )	2,420	1,037
特別利益		
新株予約権戻入益	14	36
固定資産売却益	0	0
関係会社出資金売却益	71	-
特別利益合計	85	36
特別損失		
固定資産除却損	10	4
固定資産売却損	0	0
出資金評価損	-	9
関係会社出資金売却損	63	-
減損損失	6	2
特別損失合計	80	17
税金等調整前四半期純損失( )	2,414	1,018
法人税等	943	367
少数株主損益調整前四半期純損失( )	1,471	650
少数株主利益	0	0
四半期純損失( )	1,471	651

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	1,471	650
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	4
繰延ヘッジ損益	22	11
為替換算調整勘定	59	194
その他の包括利益合計	27	201
四半期包括利益	1,443	449
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,443	449
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	2,414	1,018
減価償却費及びその他の償却費	905	939
賞与引当金の増減額( は減少)	10	278
減損損失	6	2
支払利息	339	361
売上債権の増減額( は増加)	197	61
たな卸資産の増減額( は増加)	465	302
仕入債務の増減額( は減少)	67	993
その他	64	629
小計	1,439	1,299
利息の支払額	332	354
法人税等の支払額	34	68
その他の支出	87	51
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,893	1,773
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,100	379
関係会社出資金の売却による収入	209	-
定期預金の払戻による収入	14	861
その他	98	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	974	449
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	4,802	1,634
長期借入れによる収入	1,740	3,000
長期借入金の返済による支出	2,663	2,824
社債の償還による支出	720	682
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	130	1
その他	39	239
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,988	886
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	25
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	119	412
現金及び現金同等物の期首残高	1,165	1,379
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,284	967

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

該当事項はありません。

( 会計方針の変更 )

該当事項はありません。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

( 税金費用の計算 )

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
成都雪国高榕生物科技有限公司	684百万円	90百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計期間末日満期手形が連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	0百万円	- 百万円
支払手形	156	-
設備関係支払手形（流動負債その他）	33	-

( 四半期連結損益計算書関係 )

前第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

当社グループの売上高は、連結会計年度の上期と下期とで著しい相違があります。その状況は、当社グループの主要製品であります生まいたけ等茸類の商品性から、9月～12月が最需要期、1月～3月が需要期、4月～8月が不需要期となっているためであります。

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	1,319百万円	998百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	35	31
現金及び現金同等物	1,284	967

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	133	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(注) 上記配当金の総額については、配当辞退がありました株主を除く株主を対象としております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	茸	もやし・ カット野菜	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,244	2,212	9,457	1,005	10,463	-	10,463
セグメント間の内部売上高又は振替高	14	31	45	517	563	563	-
計	7,259	2,243	9,502	1,523	11,026	563	10,463
セグメント利益又は損失( )	1,644	100	1,543	29	1,573	389	1,962

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他食品及び石油類販売等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 389百万円は、セグメント間取引消去19百万円及び主にセグメントに帰属しない全社費用(一般管理費) 409百万円であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	茸	もやし・ カット野菜	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,452	2,145	10,597	1,073	11,671	-	11,671
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	48	54	402	457	457	-
計	8,457	2,194	10,651	1,476	12,128	457	11,671
セグメント利益又は損失( )	220	61	159	24	183	391	574

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他食品及び石油類販売等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 391百万円は、セグメント間取引消去13百万円及び主にセグメントに帰属しない全社費用(一般管理費) 404百万円であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載しておりません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日 )	当第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日 )
1 株当たり四半期純損失金額( )	41円30銭	18円27銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純損失金額( ) (百万円)	1,471	651
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額( ) (百万円)	1,471	651
普通株式の期中平均株式数 (千株)	35,630	35,630

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失を計上しているため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月14日

株式会社 雪国まいたけ  
取締役会 御中

監査法人 ナ カ チ

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 安 藤 算 浩 印

業務執行社員 公認会計士 駒 崎 泰 生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社雪国まいたけの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社雪国まいたけ及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれていません。